

ART&SOCIETY 研究センター

コレクター・ドネーション

SIDE CORE

NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ | AIT [MAD 賞]

コレクター・ドネーション

SIDE CORE ・ 佐々木玄

アートのある暮らし協会

[代表枝澤佳世を始め、全国の、アートのある暮らしを提案普及するアトライフスタイリストによる 賞]

コレクター・プライズ

鷲津民子 (メイン) ・ 平良優季 (メイン) ・

三好愛 (体育館 / MORITAKA) ・

陰地妙 (体育館 / ONJI TAE PROJECT) ・ 経塚真代 (メイン)

AO NOSE [AO NOSE 賞]

コレクター・ドネーション

遠藤一郎

「やればできる！」と腹に大きく書かれたカッパの着ぐるみを着て訪れた人みんなに声をかけている遠藤一郎さん自体がアート作品だと思いました。

「売れないアーティストの作品をまとめて、売るための場に展示する」というアートフェアへのアンチテーゼ？アーティスト育成？...、謎のコンセプト展示が興味深かったです。

安藤雄二 [安藤雄二 賞]

該当なし

石田勝彦

コレクター・ドネーション

渡辺知恵美

石鍋博子

コレクター・プライズ

クスミエリカ (メイン)

伊藤洋志

コレクター・ドネーション

齋藤瑠璃子 ・ 忽滑谷昭太郎

稲葉智子

コレクター・プライズ

山本渉 (メイン)

上田欽一 [上田欽一 賞]

コレクター・ドネーション

Atsuko Nakamura

「MOT サテライト秋」の彼女のインスタレーションは、家丸ごと使った大きな展示で、街の記憶を板に移した印象的なものだった。実際のところは、その展示を見ただけで作家の意図がわかった、とは言えず、「なんか変てこなもの」ぐらいにしか思わなかったのだけれど、今回その展示の模型を見ながら、作家本人の話を聞いて、はじめて作品を理解できた。そのほかの作品についても、作家の話を聞くことで、一目見ただけでは難解すぎてついていけない作品のコンセプトが理解できて、非常に興味深い体験だった。

大石哲之 [Bigstone Collection 賞]

コレクター・プライズ

西村雄輔 (体育館 / 3331 Arts Chiyoda)

コレクター・ドネーション

太田遼

大原高文

コレクター・プライズ

猪瀬直哉 (メイン)

大森洋三 [ストリートメディア 賞]

コレクター・ドネーション

横溝美由紀

太下義之 [太下義之 賞]

コレクター・プライズ

神山亜津美 (教室 / A/A ギャラリー)

痕(よじ)られて撓(たわ)んだようなかたちの世界地図。配色も国境線には準じておらず、気ままに塗り分けられている。メルカトル図法による世界地図を見慣れ過ぎた僕らの既成概念を、神山亜津美の作品は軽やかにうちやっってしまう。国境線にしたって、国民国家の存在を前提として、誰かがある時点で線引きしたものに過ぎないという事実を再認識させられる。こうして、アーティストの魔法に導かれて、“世界”は再び僕らの前に立ち現れるのである。

小野道生 [小野道生 賞]

コレクター・プライズ

福田周平 (メイン)

会場の奥の方、静謐な一隅に並んでいた福田周平さんの作品は、最初に見た時から引き込まれるものがありました。華やかな中に翳りがあり、穏やかな中に烈しさを秘め、見るたびに異なる相貌を呈しながら、ある一刻を永遠にとどめているかのようで、見飽きぬ風景に向き合っているような感興を覚えました。何度も作品の前で足をとめて、見入るたびにどんどん惹かれました。

久保智史 (メイン)

久保智史さんの作品は、全体の雰囲気がとても好みでしたが、それに負けず劣らず興味深かったのが、その作品の描かれ方でした。とりとめのない全体(点)から小さな価値(線)を見出し、それらをつないでいく(面)というその手法に、今日的な都市デザイン手法に通じるものを感じました。久保さんが、この手法で画面にどのような風景を見出ししていくのか、とても楽しみです。

コレクター・ドネーション

渡辺望

どこの星空のかなと眺めていたその作品が、実はロンドンの路上を切り取ったものなのだと渡辺望さんに教えてもらった時の鮮烈な驚きを今でも思い出します。それは、冒険譚に触れた時のゾクゾクする感じにも似た、なんだか根源的な感情だったような気がします。世界のいろいろな街を周りたいと語った渡辺さんの冒険を応援したいと思いますし、作品になるのを楽しみにしています。